

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

減る貸出、低下する貸出金利 (3月を前にして)

歳月人を待たず、速いもので間もなく2月も終わります。しかし、「年年歳歳花相似 歳歳年年人不同」と云います。毎年同じように春はやってきますが、それを受け止める私達が昨年と同じであるというわけではありません。そして、それは何も「人」だけの話ではなく「法人」も同じではないでしょうか。「法人」である銀行も、一昨年、昨年と同じであるとは限りません。

例年に増して企業の資金需要が低迷し、銀行が貸出難に喘いでいるようです。3月決算を控え、何とか少しでも貸出を増やそうとやっきになっているようです。しかし、欠損企業が増加する中で「無担保、無保証」で融資できる先は限られてきます。日銀が集計公表しているデータはその傾向をしっかりと示しています。

下表は、05年から昨年までの中小企業貸出残高推移(全銀行)と地銀(第二除く)の短期・長期新規貸出実行金利を日銀資料から引っ張ってきたものです。先ずはご覧下さい。

	中小企業 貸出残高	地銀新規貸出金利	
		短期	長期
05/12月	179.6	1.819%	1.677%
06/12月	188.8	1.979%	1.866%
07/12月	186.7	2.126%	1.896%
08/12月	185.3	2.242%	1.728%
09/12月	178.5	1.971%	1.585%

(金利は加重平均)(金額単位:兆円)

思い出して下さい。景気回復を背景に、日銀が政策金利を引き上げたのは06年7月及び07年2月のことでした。0.25%ずつ2回引き上げを実施しました。それを受け、銀行も一斉に短期プライムレートを引き上げ、貸出金利の引き上げを図りました。上表からも長短金利が上昇していることが見て取れます。そして、08年9月リーマンが破綻、それを契機に金融収縮が世界的に広がったのは08年秋から09年春にかけてでした。上場企業が地銀の門前に市をなすという驚くべき光景が見られた一方、政府は緊急保証制度を立ち上げ中小企業の資金調達をバックアップしました。緊急保証を利用する中小企業は多く、半年あまりで利用残高は15兆円を超えるほどでした。

しかし、金融市場が落ち着くと資金需要は潮の引くように消え去り、貸出残高はあっという間に4年前のレベルに落ち込み、上げた貸出金利も元の木阿弥の状態となったのです。

何よりも私をビックリさせたのは、信金の預貸率(集めた預金をどの位貸出に廻したかを示す比率)が全国平均で54.5%迄低下したという報道でした。ざっと預金の半分しか融資に廻していない(廻せていない!)のです。当然、「残りの半分はどうしてるの?」という疑問が出てくると思いますが、別に現金で保管したり、他の金融機関に預け入れているわけではありません。少しでも多く稼がないといけませんから、融資の代替として仕方なく有価証券や有価証券に類するものにお金を投じている筈です。最も安全な国債投資が中心となっているものと推測されますが、外資系証券等が持ってくる表面的利回りが高い「魅惑的商品」に目がくらんだりしないよう老婆心ながら祈るところです。

そうした信金の状況は、信金ほどではないにせよ地銀、第二地銀の状況でもあります。短プラ0.5%引き上げが、新規案件実行において事実上消失したという事実は、数少ない資金需要の場において熾烈な金利競争が起こっていることを示唆しています。優良融資案件を他の金融機関に奪われては沽券にかかわります(上から厳しく叱られます)。そうならないよう自主的に下げることあるでしょうし、実際ダンピング競争が起こる場合もあるでしょう。

こうして、地銀でも(勿論、都銀や第二地銀でも)貸出額が減少し、貸出金利が下がるという循環に置かれているのですが、小売業等に典型的に見られる「値下げ競争」と同質のものが金融業でも発生しているのです。

さて、私たち中小企業はこうした事態にどう対処すべきでしょうか。無借金会社はどう対応しても問題ありませんが(銀行の「ご提案」には要注意)、銀行から資金調達を仰がなければならない会社は銀行に「貸し」を作るのも一法だと思います。「借り」は直ぐ忘れるのが銀行員の仕事の一部ですが、やはり彼らも人間です。転動しない限りは恩に着る世界はあると思います。

来週は3月です。既に、取引銀行担当者が来訪し「使って下さい」等と云っているかもしれません。貴方はどう対応するのでしょうか。

発信日: 2010.2.27 第605号

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp